

# 同窓会報

## むらさき

発行 者  
 國 學 院 大 學  
 栃 木 高 等 学 校  
 同 窓 会  
 (〒 328-8588)  
 栃 木 市 平 井 町 608 番 地  
 電 話 0282-22-5511

第 37 号

会員の皆様へ

### 花開く、 母校への清かな思い

同窓会会長 中 磨 輝 美



雨の合間の澄み渡った青空、  
 白い雲、太陽を浴びて爽やかな  
 色彩を放つ山々や木々、そして  
 可憐に咲き誇る花々、この様な  
 日本独特の四季のうつろいの中  
 愈々初夏の候となり、会員の皆  
 様はご健勝にてご活躍のことと  
 存じます。

#### 耐えて時を待つ桜

母校では四月八日、第五十五  
 回入学式が挙行され、五五二名  
 の新入生が入学。太平台の素晴  
 らしい環境の中で高校生活に勤  
 んでいることと思います。

今年は二月に未曾有の大雪に  
 見舞われ、各地に大きな災害を  
 もたらし、大自然の脅威をまぎ  
 まぎと見せつけられました。被  
 災された方々に心より御見舞申  
 上げます。

降り積もる雪を眺めながら今  
 年ほど春が待ち遠しく感じたこ  
 とはなかったと思います。

寒さが一段と厳しい冬に思っ  
 ことは、早く南の方から春の便  
 りが聞こえてこないかではない  
 でしょうか。つまり桜の花のつ  
 ぼみが色づき膨らみ始めること  
 を待っています。季節の移り変  
 わりの中でも特に冬から春への  
 移り変わる姿ほど大自然の営み  
 の力強さ、躍動感を感じさせる  
 ものではないのではないかと思  
 います。あの未曾有の大雪のなか  
 でじっと耐えていて春を待ち、  
 時節がめぐれば爛漫と咲く桜花。



清々しい母校

桜はただ単に春を待っている  
 のではなく、冬の厳しい自然環  
 境の中で寒さにじっと耐えなが  
 ら如何に美しい花を咲かせよう  
 かと只管に力を蓄えているので  
 しょう。そして春の訪れと共に  
 待ち侘びている人々のためにも  
 一気に花を咲かせてくれるので  
 す。そして私たちの心を癒やし  
 和ませてくれます。

桜は冬の寒さも逞しく耐えて  
 実直に春を待ち、明るい、爽や  
 かな花を咲かせてくれます。我々  
 の人生においてもこの「自然の  
 理」から学び得るものがあり、  
 耐えて時を待たなければならな  
 いことが多くあるのではないで  
 しょうか。

古来花王と称せられ日本の花  
 の象徴である桜の持つ自然界の  
 姿と、母校の校訓である「たく  
 ましく、直く、明るく、さわや  
 かに」が相通じるものがあると  
 実感した次第であります。

#### 永吉信夫奨学会

このたび第九期生の永吉信夫  
 氏より、母校の発展の為に寄与  
 したいとのことで多額の浄財が  
 母校に寄附され、その運用が母  
 校と同窓会に委任されました。  
 誠に有り難くその真心に対し心  
 より敬意を表する次第でありま  
 す。これより本人の意向を汲ん

で、永吉信夫奨学会奨学金給与  
 規定等を設けて、國學院大學栃  
 木高等学校の生徒の中から、学  
 校の名譽を著しく向上させた生  
 徒及び団体に対して奨学金を贈  
 与していきたいと思ひます。

#### 卒業生三十周年の集い

昨年は恒例により第二十一期  
 生卒業三十周年の集いが栃木市  
 において同窓生一八九名が出席  
 して開催されました。折しも伊  
 勢神宮の二十年に一度の式年遷  
 宮の年にあたり、その意義は国  
 家国民が永遠に若々しい生命力  
 を保つよう祈ることにあるとい  
 われております。常に若々しく  
 あることを「常若」というそう  
 ですが、この精神に倣って卒業  
 三十周年を機に高校時代の若々  
 しい精神に立ち返ることは、人  
 生において意義のあることです。  
 本年も第二十二期生の会が開催  
 されますので、今後も継続され  
 ることを願っています。又五期  
 生の集い、第十一期生還暦の会  
 なども開催される予定です。  
 同窓会も二月二十八日、第五  
 十二回卒業式の前日に入会式が  
 行われ、本年度卒業生を含め、  
 同窓生も三万三千五百九十五名  
 となりました。母校発展の為に  
 会員の皆様方の更なるご支援、  
 ご協力を切にお願い致します。